

第28回福岡県美しいまちづくり建築賞受賞作品概要

◆総評

福岡県美しいまちづくり建築賞は、美しいまちづくりの中核となる建築物を顕彰し、選ばれた作品の建築主、設計者、施工者の3者を表彰する制度で、福岡県知事賞と（一財）福岡県建築住宅センター理事長賞が授与される。本年度で第28回目を迎え、ますますこの賞の社会的意義が深まりつつある。平成21年度の第22回目からは、受賞作品発表会を開催して、大賞受賞者から作品に込めた思いが語られるなど、建築文化の広がりや弾みをつけている。

本年度の応募作品件数は、住宅の部が48件、一般建築の部が39件、総数87件であった。

審査対象作品を絞り込む第1次選考会は、10月23日に行われた。会場には、全作品を展示した。事前に応募書類閲覧を済ませた10名の選考委員が、最終確認を行った後に、部門別の投票を行い、県知事賞候補8作品、センター理事長賞候補2作品を現地審査対象に選出した。

第2次選考の現地審査は、12月13日と14日に行われ、設計過程、建築技術、景観調和、環境配慮、使用満足度などについて、建設に関わった当事者各位から解説をいただいた。

受賞作品の選出は、現地審査終了後の選考会において、部門別に、作品の趣旨と審査の評価とを照らし合わせた協議を経て、投票を繰り返して行われた。今回は、敷地環境、構造種別、空間構成、建築機能、まちなみ景観と、それぞれの作品の評価軸が異なり、受賞作品と選外作品が相拮抗する、極めて難しい選考であった。

住宅の部の大賞には、ミニマルライフを独創的な空間で楽しむ「桧原の家」を、優秀賞には、まちなみ景観に配慮した木縦格子と植栽の緑が印象的な「観世音寺の家」を選定した。僅差で受賞を外した「Rock House」は、周防灘を一望する巨石園の敷地に、モダニズムの気高さを漂わせて建つ鉄骨造住宅で、設計者の構想力と依頼者の美的居住力が相際立つ作品であった。「BRUNO」は、郊外住宅地開発における既存緑地の保全設計と、コーポラティブ式集合住宅の個別設計を堅実にまとめた、社会性のある作品であった。

一般建築の部の大賞には、市民のパブリックライフに憩いと歓びを与えてくれる「BOATHOUSE OHORI PARK」を、優秀賞には、礼拝と社会福祉の場を木造木質一色で空間化した「軒の教会-東八幡キリスト教会-」を選定した。選外佳作となった「Kitchenhouse fukuoka showroom」は、キッチンショールームをモダンな建築美術に昇華させた建築技術の粋を感じる、見応えのある作品であった。同じく選外佳作の「森のおうち保育園」は、木造木質の空間が保育児童を包み込んでいて、シュタイナー教育の空間化を模索した、建築主、設計者、施工者の熱意が伝わってくる作品であった。

センター理事長賞候補2作品の現地審査と最終選考は、選考委員2名とセンター役員1名により、11月20日に実施した。理事長賞に選定した「本城中央団地住戸改修事業」は、入居者の目線に立った更新デザインを先導する設計組織の確立に先取性が見られる作品であった。『古民家デイサービス「みんなの時間」』は、古民家が蓄積してきた時間と空間に敬意を表すかのような改造・改修の技術が巧みに活かされていて、利用者の笑顔が見られた作品であった。

【住宅の部】 大 賞

桧原の家

●設計趣旨／SUPPOSE DESIGN OFFICE Co.,Ltd. 谷尻誠 吉田愛

敷地は福岡市の貯水池に面した傾斜地にあり、家族4人のための生活の場をつくる計画である。われわれは時間の過ごし方において多くの場合、「何もしない」ことよりも「する」ことを優先してしまうが、このプロジェクトでは「なにもしない」時間を日常の中で所有してもらいたいと考えた。

ただ1枚のシンプルな屋根を敷地に沿って架けて景色の大部分を遮蔽し、目の前に切り取られる景色の豊かさを顕在化させる提案とした。

傾斜する敷地に鑿められた空間を屋根によって特徴付け、風景がもつ機能を生活の場と結びつける計画である。

あるところでは原っぱの中の小屋に籠るような静かな空間が、あるところでは水辺のベンチに腰をかけ時間の流れを感じるおおらかな空間が、ここでは展開される。

●講評

シンプルなミニマルライフが、ひな壇状の斜行空間でいさぎよく展開されている。モノと空間と自然が、アートのように関わり合う、日本の伝統的な「わび・さび」に通じる文化を思い起こす。

貯水池の葦原傾斜地にへばりついたこの家は、水辺と対峙した鋭い建築形態で、周囲から際立っている。構造デザインの粋を感じる極細の鉄柱に支えられた斜行空間は、間仕切りが少なく、大らかな広がりを見せている。細隙状の水平ピクチャーウインドウは、池水面を風景画の額縁のように切り取っている。斜行ピクチャーウインドウからは、間近の自然が目に飛び込んできて、にぎにぎしい。

審査見学中に降り始めた雨粒が、池水面に小さな波紋を広げ始めた瞬間を、このピクチャーウインドウから目撃した。貯水池の自然観賞を促すこの住宅の視覚構造が、周到的な仕掛けで造られていることが納得される。屋根を滑り落ちる横一直の雨だれの風情を愛でる面白みを、オーナーから教えていただいたのも印象的だ。

この家は、モノにあふれた現代の住環境の見直しを考えるうえで、貴重な示唆に富む。大量消費型のモノに縛られる生活が変わって、最小限の良品を選択して、自然の景色と一体となって棲むという、あたらしい世代の住宅文化の始まりに気づかされる。



撮影：Techni Staff

(所在地：福岡市南区)

【一般建築の部】 大 賞

BOATHOUSE OHORI PARK

●設計趣旨／竹中工務店設計部、生活スタイル研究所

公園の中の飲食施設の建替えである。福岡市中心にある市民憩いの場「大濠公園」の水辺の一角がその敷地である。アジアからの来訪者も多い。建築の再生にあたり、自然と共存し水景を楽しむ施設となることを目指した。

豊かな自然を背景に、既存の樹木を残しながら一本の水平線（庇）を水辺に添えた。東西に長い庇の上下に人々が集う場が生まれ、新たな水辺の風景が創出された。

石や木の素材を細かく刻んだディテールを用いたり、植栽群を新たに加えたり、時間の経過とともに建築が自然に馴染んでいくことを意図し、末永く親しまれる施設となるようつくりこんだ。

●講評

大濠の水面越しに眺めるボートハウスが、絵画の焦点のように目を引く。昭和30年代に造られた水辺リゾート施設の老朽化に伴って、福岡県が建て替え公募選定した建築である。建て替え前は、蔦が絡まる木造コテージ風のカフェレストランとして市民に親しまれ、大濠公園での憩いと出合いの空間を提供していた。大濠公園は、福岡城の外堀跡としてその歴史的風致が貴重であり、現在は国の名勝に指定されている。

新装されたこのボートハウスは、水辺の広がり強調する水平な軒庇、大濠の空の広がりをつらえた大開口のガラス窓などが、デザインされている。建物廻りに記念樹のように残された、クス、マツ、シュロの3老樹は、市民に親しまれつつ解体された旧ボートハウスへの敬愛の印にも映る。

カフェやショップは、散策や会食を楽しむ市民に開放されて、楽しげである。階上ダイニングの1室には、1954年にマリリン・モンローとジョー・ディマジオが、レストラン「花の木」で食事を楽しんだ家具内装が復元されている。こうした古く懐かしい時代の逸話を膨らませてくれる都市界隈の物語性からも、この建築の魅力がうかがえる。

大濠の歴史とともに、旧ボートハウスに刻まれた市民の思い出を引き継ぐ、この現代版水辺リゾート施設の賑わいは、都市のパブリックライフを高揚する優れた文化的景観の証に他ならない。



撮影：Kouji Okamoto

(所在地：福岡市中央区)

【住宅の部】 優 秀 賞

観世音寺の家

●設計趣旨／株式会社山田デザイン研究室 代表取締役 山田浩史

敷地は太宰府市観世音寺の近く、閑静な住宅地の一角である。

クライアントからは緑豊かな環境での暮らし、ライブラリー、家族が仲良く集えて気配が感じられるような家、光や風をほどよく感じたり自然を身近に感じたい。などの要望があった。

計画にあたっては1階と2階を分断しないこと、街並みに対して軒高さを低く抑えることを設計の軸とし、道路より高い地盤面を利用してスキップフロアで上下階を緩やかにつないだ。

また、建物全体に1枚の折り曲げられた屋根をかけることで軒高を低く抑え、流動的でのびやかな内部空間を目指した。

太宰府・観世音寺という歴史ある場所にふさわしい意匠を模索し、木製縦格子の和の表現を採用した。

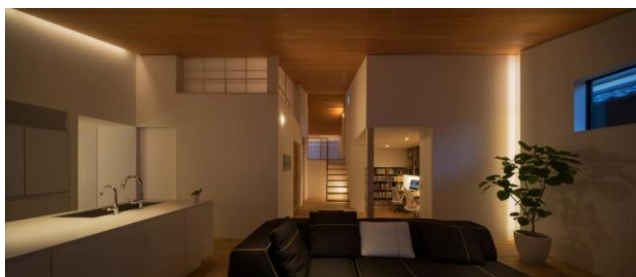
●講評

歴史を感じさせる木縦格子と玄関前の緑の植栽が、旧来のまちなみに新たな景色を創っている。太宰府市の遺跡共生区域の景観モデル住宅として、見守り続けたい作品である。

平成22年に施行された「太宰府市景観まちづくり計画／景観計画」には、「自然と文化遺産を生かして、景観を守り、創り、育てていく」という理念が、色彩や緑化の基準とともに記されている。この住宅では、こうした市民が協賛するまちづくりの理念を、建て主、設計者、施工者の3者の創造的な協働によって、いち早く体現して見せている。

建て主が要望したもろもろの空間機能は、設計者の立体的な空間構想と、施工者の経験豊かな手作業の技によって、見事に造り込まれている。壁面の要所には絵が飾られ、ライブラリーには書籍が並ぶ。窓からは、木々や月も楽しめる。こうした家族の生活感覚に寄り添う建築の佇まいからは、歴史的風致に優れた太宰府のまちに住む喜びが伝わってくる。

さらに、駐車場の景観問題にも提案が見られる。建物をセットバックしてその前面に植栽を欠いた駐車場を設けるのではなく、駐車空間を主体建築に組み込むことによって、まちなみ景観を創り育てていくという、市民感覚の目標が達成されている。



撮影者：石井紀久
(所在地：太宰府市)

【一般建築の部】 優秀賞

軒の教会 —東八幡キリスト教会—

●設計趣旨／株式会社手塚建築研究所 代表取締役 手塚 貴晴

代表取締役 手塚 由比

「他者のための教会」を使命とする東八幡キリスト教会の新会堂。礼拝堂を中心として深い軒を四周に備えた。玄関扉を開け放てば、外部と内部の区別が無くなり、玄関から礼拝堂までの20m以上にわたる大軒があらゆる人々を受け入れる。礼拝堂は正方形平面をしており、天井の四辺には天窗が切られ、射し込む光が厚い杉板下見板張りの壁に独特の縞模様を描き出す。バプテス トリー（洗礼槽）は低みにあるヨルダン川に因み、床面に切られ、この会堂で最も低い場所となった。軒の下には困窮状態にある人々のためのシェルターや、引き取り手の無い遺骨も納骨する記念室を備え、まさに「他者のための教会」となった。

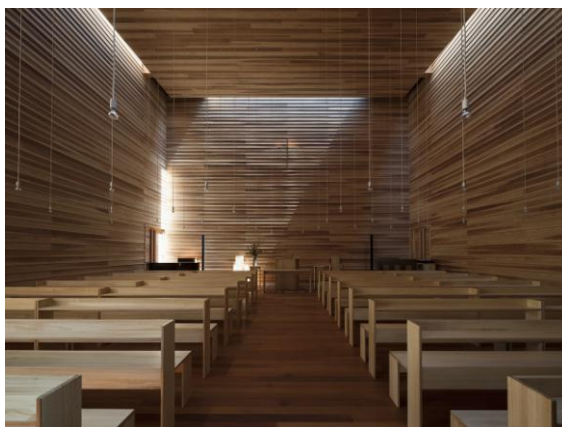
●講評

この教会堂建設に携わった人々の建設物語が、既に、“美しいまちづくり建築”に値する。教会側と設計側は、人々が立ち寄れる「軒下空間」を主題にして、この教会堂の設計構想を詰めたという。実現した「軒の教会」は、木造木質一色で造られ、人間尺度の空間が主題を体現して心地よい。

南と北の道路に挟まれた敷地に、簷下見板壁のツインボックスが建ち上がっている。その周囲に、軒下空間が都市の街路のように取り付いている。礼拝堂の高い天井四周から差込む日の光は、杉板一面の内壁に陰影を刻んでいる。礼拝堂と多目的ホールを介在している軒下空間は、都市の狭小街路で人々が出合い屯する親密な光景を思い起こす。

この教会は、こうした都市街路で繰り広げられるドラマを、この木造木質の空間構造に内包することによって、教会員の礼拝と社会活動を機能させているように見える。建て替え前から地域の人々とつながる困窮者支援の奉仕活動も、軒下空間で受け入れている。

竣工以降、この教会では、いくつもの人間ドラマが生まれているという。まだ木の香りが残る新しい建築であっても、どこか懐かしさがあるともいう。この教会建築の素晴らしさは、こうした教会活動の物語を融通無碍に育む木造木質空間の創造にある。



撮影者：Katsuhisa Kida / FOTOTECA

(所在地：北九州市八幡東区)

(一財) 福岡県建築住宅センター理事長賞 募集テーマ:「住宅のリフォーム・リノベーション」
福岡県住宅供給公社 本城中央団地住戸改修事業

●設計趣旨／株式会社タムタムデザイン一級建築士事務所 代表取締役 田村 晟一郎

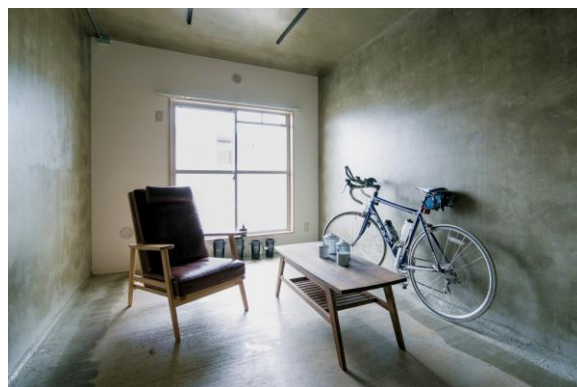
1980年代に建設されたこの団地は建物の老朽化や画一された間取りで現代ニーズに対応出来ず、また人口の減少や地域治安の不安が空室増大に拍車をかけていた。このリノベーションプランはリーシングの現場から消費者の要望を吸い上げ「設計→施工→斡旋」ではなく「斡旋→設計→施工→斡旋」という手法を軸に組み立てている。団地特有の画一された間取りは廊下が狭く、玄関が「暗い」印象があった。またトイレへのアクセスにも問題があった。この2点を改善する為に従来の団地間取りに無い玄関ホールを設け、同時に入居者の個性が出せる土間空間を創った。多様な生活空間を入居者が生み出すことで今後の団地再生の汎用性を狙っている。

●講評

入居者の個性的なライフスタイルに応えるこの団地改修工事は、現代の少子高齢社会での射た社会性がある。高度成長期に画一的に造られた団地住戸の間取りを一旦解体したうえで、内装と設備の更新を、納得できる予算枠で実現している。

なかでも、スケルトン・インフィル方式による土間の設定は、入居者に趣味の空間造りを委ねる日曜大工の好機を提供している。総ての内装を完全に整えるのではなく、自分好みに小規模な変更を許容する余白を残す手法である。台所設備も、あえて半露出型に工夫することで、更新コストを抑えている。こうした改修手法は、内装の創造性にあふれる入居者層を引きつける魅力に富んでいて、玄関、リビング、寝室にも適用されている。

入居者がいまだく創造性に着目したこの余白を残す改修工事の企画には、入居斡旋の専門家が参加している。従来の枠組みを超えて、発注者、入居斡旋者、設計者、施工者の4者の専門家が、この改修工事のための設計共同体を組織している。入居者目線に立った新しい住まい方を提案する絶好の機会と捉えた、新規発想の組織である。現状考察・設計・施工・入居斡旋を一括するこうした設計組織の結成が、この団地改修工事を成功させた大きな要因であることは間違いない。



撮影者: camekiti

(所在地: 北九州市八幡西区)